

男女共同参画・人権に関する意識調査の結果について

1 趣旨

第4次松本市男女共同参画計画・女性活躍推進計画（平成28年度～令和4年度）の改定を行い、第5次計画（令和5年度～令和9年度）を策定するための基礎資料とします。また、松本市の人権問題の現状を把握するために市民意識調査を実施しました。

調査結果がまとまりましたので、その内容について報告するものです。

2 調査の概要

(1) 調査に関する業務

民間調査機関に業務委託

(2) 実施方法等

区 分	男女共同参画・人権市民意識調査	男女共同参画・人権アンケート
調査対象者	18歳以上	中学生・高校生
調査数	1,500人 (回収数 657人)	2,200人 (回収数 1,365人)
回収結果	43.8%	62.0%
調査方法	郵送で配付し、郵送またはインターネットによる回答	学校で配付し、インターネットによる回答
調査期間	令和3年11月～12月	令和3年11月～12月
設問数	25問	23問
設問内容	家庭生活、就労、社会参加、教育、ドメスティック・バイオレンス、基本的人権、男女共同参画	家庭生活、学校生活と学校で学習したこと、働くこと、人権、男女共同参画

(3) 過去の調査（同内容で調査）

ア 第1回調査 平成18年度

イ 第2回調査 平成23年度

ウ 第3回調査 平成28年度

3 調査結果の概要

別紙概要のとおり

男女共同参画・人権市民意識調査の概要

1 18歳以上市民意識調査

1 家庭生活について

【問1】家事担当者	今回	前回(H28)	比較
・食事支度、食事後片付け、掃除、洗濯、買物、日用品、家計管理の女性担当の割合	60.7%~ 74.5%	62.5%~ 77.1%	△1.8%~ △2.6%

※ 日常の家事「食事の支度、食事の後片付け、掃除、洗濯、買物(日用品)、家計の管理」について、女性が担当している割合は、それぞれ約6割強~7割強である。それに対し、男性が担当している割合は、約2割と性差がみられる。しかし、前回調査と比べ、「あなたとパートナーが同じくらいに」の割合がどの項目でも増加していて、協力して行う傾向が表れている。

【問2】家事従事時間		今回 (2時間以上)	前回(H28) (2時間以上)	比較
・平日における	女性の割合(従事時間)	48.1%	48.2%	△0.1%
	男性の割合(従事時間)	4.2%	5.2%	△1.0%
・休日における	女性の割合(従事時間)	57.7%	55.7%	2.0%
	男性の割合(従事時間)	14.5%	17.0%	△2.5%

※ 前回調査とほぼ同様の結果で、平日では女性は「2時間以上」が最も高く48.1%、男性は「30分以内」51.6%が最も高くなっている。変わらず女性の家事分担時間が圧倒的に多いことが分かる。

2 就労について

【問3-1】全体に尋ねた実際の就労形態	今回	前回(H28)	比較
・結婚や出産に関わらず仕事を続けている	28.2%	21.8%	6.4%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(パートタイム)	21.5%	23.7%	△2.2%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(フルタイム)	11.6%	10.0%	1.6%
・結婚後から家事や子育てに専念	7.3%	10.2%	△2.9%

【問3-1】女性本人に尋ねた実際の就労形態	今回	前回(H28)	比較
・結婚や出産に関わらず仕事を続けている	31.6%	26.0%	5.6%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(パートタイム)	23.9%	22.4%	1.5%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(フルタイム)	11.0%	11.7%	△0.7%
・結婚後から家事や子育てに専念	11.0%	9.7%	1.3%

※ 「結婚や出産に関わらず就労」が31.6%と最も高い。6割半ば以上の女性が、結婚や出産・子育て後も就労していることが分かる。

【問3-1】男性に尋ねた妻の実際の就労形態	今回	前回(H28)	比較
・結婚や出産に関わらず仕事を続けている	23.9%	16.7%	7.2%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(パートタイム)	18.7%	25.5%	△6.8%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(フルタイム)	12.1%	7.9%	4.2%
・結婚後から家事や子育てに専念	10.4%	10.9%	△0.5%

※ 「結婚や出産に関わらず就労」が 23.9%と最も高く、結婚や出産を経て妻が就労しているという状況は、前回調査と比べても増加傾向にある。

【問3-2】全員に尋ねた女性の望ましい就労形態	今回	前回(H28)	比較
・結婚や出産に関わらず仕事を続けている	31.2%	21.2%	10.0%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(パートタイム)	19.8%	21.2%	△1.4%
・子育ての時期だけ一時止め、その後仕事を続けている(フルタイム)	16.3%	19.0%	△2.7%

※ 「結婚や出産にかかわらず就労」が 31.2%と最も高く、前回調査に比べて10ポイント増加している。

【問4】行政や企業がすべき女性就労支援策	今回	前回(H28)	比較
企業の育児休業や介護休業を取得しやすい環境づくりを支援	67.7%	67.8%	△0.1%
在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度の導入を促進	60.0%	51.3%	8.7%
・保育サービスの充実	59.1%	58.9%	0.2%

※ 男女とも子育てをしながら柔軟に働く環境づくりへの支援が望まれている。

【問5】男性の家事、子育て、介護参加に必要なこと	今回	前回(H28)	比較
・夫婦や家族間で頻繁に話し合うこと	40.2%	38.4%	1.8%
・労働時間短縮や育児・介護休暇制度の普及	38.1%	36.1%	△2.0%
・男性の家事や子育て・介護の社会的評価を高めること	30.6%	29.2%	1.4%

※ 男女でお互いにコミュニケーションをとり、制度を使って子育てや介護に参加することが望まれている。また、「男性の家事や子育て・介護について社会的評価をこと高めること」を望んでいるとの意見も多かった。

【問6】無就労者の就労意向	今回	前回(H28)	比較
・働ける状況にない	40.7%	39.7%	1.0%
・働きたい	27.3%	25.0%	2.3%
・働きたくない	19.8%	18.8%	1.0%

※ 「働ける状況にない」が 40.7%と最も高いが、その内訳を男女別で見ると女性が 42.1%、男性が 38.6%と前回調査より男女差が縮小している。また、女性より男性の「働きたくない」の割合が 12.3 ポイント高くなっている。

【問6-1】興味のあるキャリア・アップ、自己啓発講座(問10で働きたいとした回答者)	今回	前回(H28)	比較
・自分自身の適正へのアドバイス	27.7%	37.5%	△ 9.8%
・語学等に関する専門的な資格取得	25.5%	8.9%	16.6%

※ 「自分自身の適性へのアドバイス」が 27.7%と最も高い。男女別でみると、女性は、パソコンの操作やパソコンの資格取得に興味が高く、男性は語学・法律・会計等専門的な資格に興味が高い。

3 社会参加について

【問7】社会参加経験と参加意向	今回	前回(H28)	比較
○参加経験			
・自治会や町内会、商店街等の地域活動	35.2%	44.7%	△ 9.5%
・趣味やスポーツの活動	24.2%	34.2%	△ 1.0%
・どれにも参加していない・参加したいとは思わない	32.0%	22.2%	9.8%
○今後の参加意向			
・趣味やスポーツの活動	32.4%	35.8%	△ 3.4%
・地域の仲間が集まって行う勉強会や研究会	12.5%	13.9%	△ 1.4%
・どれにも参加していない・参加したいとは思わない	25.4%	16.7%	8.7%

※ 社会参加経験・参加意向ともに「どれにも参加していない・参加したいとは思わない」の割合が、増加傾向にある。

【問8】女性の社会参加が低い理由	今回	前回調査(H28)	比較
・自治会などの団体の代表者は男性が担当することがしきたりや慣習になっているから	44.9%	48.0%	△ 3.1%
・役員決定をはじめとして男性主体の組織経営がされているから	42.5%	46.1%	△ 3.6%
・女性自身が責任ある役職に就くことに消極的だから	38.4%	42.3%	△ 3.9%

※ 男女別でみると、「自治会などの団体の代表者は男性が担当することがしきたりや慣習になっているから」や「役員決定をはじめとして男性主体の組織経営がされているから」の割合が、前回調査に比べて、女性の割合がわずかに減り、男性の割合が増加している。

4 教育について

【問9】家庭と学校での教育について	今回	前回(H28)	比較
○性教育については			
・学校で、どちらかという是学校で	76.4%	67.7%	8.7%
・家庭で、どちらかというと家庭で	19.6%	27.0%	△ 7.4%
○いのちの大切さや人権尊重については			
・学校で、どちらかという和学校で	52.4%	41.7%	10.7%
・家庭で、どちらかというと家庭で	42.5%	52.3%	△ 9.8%

※ いのちの大切さや人権尊重について、「学校で」「どちらかという学校で」を合わせると52.4%と、前回調査とは逆転して学校で行うべきと回答した割合が高くなっている。

【問10】男女間における関心事	今回	前回(H28)	比較
・仕事と家庭を両立させる方法	30.6%	29.4%	1.2%
・コミュニケーション能力の向上のための自己表現トレーニング	28.3%	25.9%	2.4%

※ 男女別で見ると、男性に比べ女性は「仕事と家庭を両立させる方法」の割合が高く、女性に比べ男性は「男女の協力関係の成功の秘訣」への関心が高くなっていて、女性の方が「仕事と家庭の両立」により関心が高いことが分かる。

5 配偶者などからの暴力(DV)について

【問11】認識状況	今回	前回(H28)	比較
・絶対してはいけないと認識している割合	89.2%	89.4%	△ 0.2%

※ 内訳を男女別にみると、男性が84.8%に対し、女性が92.9%と性差が生じており、DVに対する意識の違いが分かる。

【問12】DV意識	今回	前回(H28)	比較
○「どんな場合でも暴力にあたると思う」こと			
・身体に対しての暴行	91.2%	91.8%	△ 0.6%
・性的な行為を無理じいすること	80.2%	80.6%	△ 0.4%
・言葉や態度で攻撃すること	68.6%	66.2%	2.4%

※ 前回調査同様、DVに対しての意識は高い。

【問13】被害・加害経験			今回	前回(H28)	比較
・大声でどなる行為	被害経験	女性	29.1%	30.2%	△1.1%
		男性	21.8%	17.9%	3.9%
	加害経験	女性	19.5%	19.3%	0.2%
		男性	31.5%	33.1%	△1.6%
・命の危険を感じるほどの暴行	被害経験	女性	7.1%	2.2%	4.9%
		男性	1.4%	1.8%	0.4%
	加害経験	女性	1.1%	0.2%	0.9%
		男性	0.7%	0.6%	0.1%

※ 被害経験は、女性がどの項目においても男性より多く、「命の危険を感じるほどの暴行」や「家族に危害を加えられるのではないか」の割合は、前回調査よりも増加している。

【問13-1】相談経験		今回	前回(H28)	比較
・相談しようとは思わなかった	全体	55.4%	56.7%	△ 1.3%
	女性	39.9%	48.5%	△ 8.6%
	男性	82.7%	75.0%	7.7%

※ 「相談しようとは思わなかった」が55.4%と最も高く、次いで「相談した」が29.9%、「相談できなかった」が10.3%だった。

【問13-2】相談先	今回	前回(H28)	比較
・友人・知人	71.6%	57.9%	13.7%
・家族・親せき	62.7%	61.8%	0.9%

※相談先は、「友人・知人」が増加している。

【問13-3】相談しなかった理由	今回	前回(H28)	比較
・相談するほどのことではない	59.2%	62.3%	△ 3.1%
・自分にも悪いところがある	38.8%	27.3%	11.5%
・相談してもむだと思ったから	25.9%	19.5%	6.4%

※「自分にも悪いところがある」の割合が増加している。

【問14】相談機関の認知状況	今回	前回(H28)	比較
・市の相談窓口(こども福祉課・保健センター・女性センター・いのちのきずな松本)	51.6%	52.7%	△1.1%
・いのちの電話相談	44.6%	26.8%	17.8%
・松本児童相談所(児童虐待・DV24 時間ホットライン)	37.7%	34.9%	2.8%

※「いのちの電話相談」が大幅に増加している。

6 基本的人権について

【問15】自身の人権が侵害された経験	今回	前回(H28)	比較
・ある	28.2%	27.0%	1.2%
・ない	70.6%	66.3%	4.3%

※「ある」「ない」とも増加している。

【問15-1】人権侵害を受けた状況	今回	前回(H28)	比較
・職場・仕事関係	50.8%	59.5%	△ 8.7%
・学校関係	33.0%	11.5%	21.5%
・家族・親族	21.1%	18.5%	2.6%
・夫婦・恋人間	19.5%	20.0%	△ 0.5%

※ 学校関係の割合が大幅に増加している。

【問15-2】インターネット上で人権侵害を受けた状況	今回	前回(H28)	比較
・ある	12.4%		
・ない	87.0%		
・無回答	0.5%		

※ 今回の調査から加えた項目

【問15-3】インターネット上で人権侵害を受けた内容	今回	前回(H28)	比較
・真実でないこと(デマ)	56.5%		
・思想・言動	52.2%		
・容姿	17.4%		

※ 今回の調査から加えた項目

【問16】人権尊重市政運営意識	今回	前回(H28)	比較
○人権が尊重された市政が運営されているか ・そう思う、どちらかといえばそう思う	68.8%	68.6%	0.2%
・そう思わない、どちらかといえばそう思わない	27.1%	21.3%	5.8%

※ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が 68.8%であり、約 7 割を占めた。

【問17・問17-1】関心のある人権問題	今回	前回(H28)	比較
・インターネット上での人権侵害の問題	43.4%	35.4%	8.0%
・学校でのいじめや児童虐待などの問題	43.1%	48.0%	△ 4.9%
・性的少数者への差別などの問題	29.4%	17.1%	12.3%
・外国人などへの差別の問題	25.4%	17.7%	7.7%

※ 関心のある人権問題は、「インターネット上での人権侵害」が 43.4%と最も高く、8ポイント増加している。関心が高まっている問題は「性的少数者への差別などの問題」で 12.3 ポイント増加している。

【問17-2】差別や偏見を感じる課題	今回	前回(H28)	比較
・男女差別や女性に対する暴力などの問題	46.3%	38.0%	8.3%
・障がい者への差別や偏見などの問題	45.8%	38.8%	7.0%
・刑を終えて出所した人への差別問題	43.1%	34.6%	8.5%

※ 「男女差別や女性に対する暴力などの問題」が 46.3%と最も高い。

【問17-3】松本市の重点的取組課題	今回	前回(H28)	比較
・学校でのいじめや児童虐待などの問題	55.6%	53.4%	2.2%
・インターネット上の人権侵害の問題	40.2%	26.8%	13.4%

※ 「学校でのいじめや児童虐待など」が 55.6%と最も高く、次いで、「インターネット上の人権侵害」が 40.2%で前回調査より13.4 ポイント増加している。

【問18】部落差別問題意識	今回	前回(H28)	比較
・まだある	8.7%	8.1%	0.6%
・少しはある	29.4%	31.1%	△ 1.7%
・ない	15.5%	14.6%	△ 0.9%

※ 「まだある」が 8.7%、「少しはある」が 29.4%で4割弱が「ある」と回答している。

【問18-1】あると思われる状況	今回	前回(H28)	比較
・結婚	69.2%	80.8%	△11.6%
・近所づきあい	41.2%	27.5%	13.7%

※ 「結婚」が減少し「近所づきあい」増加している。

【問19】差別や人権問題を家庭等で話した経験	今回	前回(H28)	比較
・話し合ったことはない	49.9%	48.7%	1.2%
・食事やお茶などのとき、時折話し合う	28.2%	26.5%	1.7%
・時間をとって話し合ったことがある	3.3%	2.4%	0.9%

※ 「話し合ったことはない」が49.9%と最も高い。前回調査と比べ、ほぼ同様の比率

7 男女共同参画について

【問20】男女平等意識	今回	前回(H28)	比較
○男女の地位は平等と思う分野は			
・学校	64.1%	59.8%	4.3%
・家庭	38.7%	38.5%	0.2%
・法律や制度	35.5%	39.6%	△4.1%
・社会全体	14.5%	17.0%	△2.5%
・社会通念・慣習	13.4%	15.8%	△2.4%

※ 男女の地位は平等と思う人は、「学校」と「家庭」、「法律や制度」の分野で高くなっている。しかし「社会通念・慣習」や「社会全体」では、未だ8割弱が「男性が優遇されている(どちらかといえば含む)」と回答している。

【問21】家事や仕事分担に対する考え方	今回	前回(H28)	比較
○育児や介護は夫婦で協力するほうがよい	95.4%	93.2%	2.2%
・そう思う、どちらかといえばそう思う	(68.3%)	(58.4%)	(9.9%)
○家事全般は夫婦で協力する方がよい	93.1%	90.3%	2.8%
・そう思う、どちらかといえばそう思う	(63.3%)	(54.7%)	(8.6%)
○夫婦の姓は一緒にするほうがよい	35.5%	21.2%	14.3%
・思わない、どちらかといえばそう思わない	(17.6%)	(11.7%)	(5.9%)

※ 「育児や介護は夫婦で協力するほうがよい」と「家事全般は夫婦で協力する方がよい」でともに9割を超え増加していて、家事や育児、介護に対し男女で協力するという意識が定着しつつある。また、「男は仕事、女は家庭と役割を分けたほうがよい」と「思わない(どちらかといえば思わない含む)」割合が79.6%と8割近くまで増加している。

※ ()内は「そう思う」「そう思わない」のみの割合

【問22】メディアの性・暴力表現	今回	前回(H28)	比較
・ドラマやアニメなどで暴力シーンを流すことは犯罪を助長すると感じる	38.7%	42.0%	△3.3%
・特に感じない	28.9%	24.4%	4.5%

※ 「ドラマやアニメなどで暴力シーンを流すことは犯罪を助長する」は3.3ポイント減少し、「特に感じない」の割合が28.9%と前回調査より4.5ポイント増加している。

【問23】施策の認知状況	今回	前回(H28)	比較
・男女雇用機会均等法	61.9%	62.5%	△ 0.6%
・育児・介護休業法	51.1%	43.9%	7.2%
・DV防止法	40.3%	38.4%	1.9%

※ 「育児・介護休業法」が 51.1%、「DV防止法」が 40.3%で、両法とも前回調査よりポイントが増加していて、時代情勢を反映している。

【問24】希望重点施策	今回	前回(H28)	比較
・子育て支援の充実	50.1%	49.5%	0.6%
・高齢者施策の充実	30.4%	35.6%	△ 5.2%
・学校教育における男女共同参画の推進	29.1%	24.4%	4.7%

※ 3 つともに前回調査と同じ順番であり、引き続き関心の高さがうかがえる。

【問25】女性センターやトライあい・松本で希望する取組み	今回	前回(H28)	比較
・女性の再就職や起業を支援する講座	36.2%	32.7%	3.5%
・生き方や悩みなどの相談事業	26.5%	21.3%	5.2%

※ 「女性の再就職や起業を支援する講座」が 36.2%と最も高い。男女別でみると、女性は「女性の再就職や起業を支援する講座」が 43.1%と最も高く、男性は「男女共同参画の課題を専門的に学習できる講座」が女性の割合に比べ多い結果となった。

2 中学生、高校生アンケート

1 家庭生活について

【問1】家庭での家事等	今回	前回(H28)	比較
○毎日すること			
・食事の後片付け	56.6%	52.9%	3.7%
・食事の支度	39.8%	33.5%	6.3%

※ 毎日する家事等は、「食事の後片付け」が最も高く、次いで、「食事の支度」で、ともに割合が増加している。「自分の家の仕事(家業)」が 6.8 ポイント増加している。今回新しく加えた設問の「若い弟や妹の世話」を毎日する割合が「掃除」や「洗濯」よりも多くなっている。

【問2】家事を手伝う時間	今回	前回(H28)	比較	
平日	30分以内	75.9%	73.4%	2.5%
	1時間	17.1%	18.1%	△ 1.0%
休日	30分以内	53.6%	49.5%	4.1%
	1時間	30.4%	30.4%	—

※家事の手伝う時間は平日、休日ともに「30分以内」が最も高く、割合は増加傾向である。休日ほど長い時間手伝う割合が多い結果となっている。

【問3】結婚、子ども、老後の親の世話		今回	前回(H28)	比較
結婚	・したい	57.8%	69.6%	△11.8%
	・したくない	6.2%	5.2%	1.0%
	・わからない	36.0%	24.7%	11.3%
子ども	・持ちたい	57.5%	66.8%	△ 9.3%
	・持ちたくない	8.6%	5.3%	3.3%
	・わからない	33.9%	27.4%	6.5%
親の介護	・したい	62.1%	46.7%	15.4%
	・したくない	3.7%	6.7%	△ 3.0%
	・わからない	34.2%	46.0%	△11.8%

※ 結婚も子どもも「したい(持ちたい)」は前回よりも減少し、「わからない」が増加している。親の介護は「したい」の割合が増加し、「わからない」の割合が減っている。

【問4】ドメスティック・バイオレンスの理解		今回	前回(H28)	比較
○どんな場合でも暴力にあたると思うこと				
	・身体に対して暴行	82.1%	82.0%	0.1%
	・性的な行為を無理じいする	84.6%	79.7%	4.9%
	・言葉や態度での攻撃をすること	57.1%	57.1%	－

※ 前回調査とあまり変化が見られない。男女別にみるとほぼ同率であり、同じ認識であることが分かる。

2 学校生活について

【問5】男女差別を感じることの有無		今回	前回(H28)	比較
	・感じる	11.4%	6.0%	5.4%
	・ときどき感じる	28.1%	22.3%	5.8%
	・感じない	60.5%	68.3%	△ 7.8%

※ 差別を感じる方向への意識の変化がみられる。

【問6】男女差別を感じる場面		今回	前回(H28)	比較
	・男だから、女だからと言われる	55.8%	55.3%	0.5%
	・先生が男子(女子)に厳しく、女子(男子)に甘い	42.5%	54.3%	△11.8%
	・制服が男子女子で決められている	34.7%	15.9%	18.8%
	・決まりで男女扱われ方が違う	34.7%	19.7%	15.0%

※ 前回調査と比べると「制服が男子女子で決められている」と「決まりで男女扱われ方が違う」の割合が増加している。

【問7】人権課題についての学習状況		今回	前回(H28)	比較
○学習したこと				
	・いのちの大切さ	99.0%	95.8%	3.2%
	・いじめの問題	97.8%	95.5%	2.3%

【問8】人権課題についての学習効果	今回	前回(H28)	比較
○大切なことを学べてよかったもの			
・いのちの大切さ	78.8%	75.8%	3.0%
・いじめの問題	70.7%	64.3%	6.4%

※ 実際に学習する割合の高さと関心の高さは一致している。

【問9】HIV(エイズ)や性感染症及び予防法についての理解	今回	前回(H28)	比較
・知っている	33.3%	19.1%	14.2%
・なんとなく知っているが、予防できるかわからない	38.5%	50.0%	△11.5%
・知らない	28.2%	25.9%	2.3%

※ 中高生別でみると、「知っている」と答えたのは高校生男子が最も多く 57.1%、高校生女子で 46.3%となり、中学生より高校生の割合が多くなっている。

3 働くことについて

【問10】結婚後の理想とする働き方		今回	前回(H28)	比較
全体	・育児で休暇をとり、仕事を続ける	36.8%	35.8%	1.0%
	・子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念	14.4%	19.3%	△ 4.9%
女子	・育児で休暇をとり、仕事を続ける	42.9%	47.4%	△ 4.5%
	・子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念	14.2%	6.5%	△ 7.7%
男子	○妻の理想の働き方は	30.7%	24.5%	6.2%
	・育児で休暇をとり、仕事を続ける ・子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念	14.6%	11.8%	2.8%

※1 全体で育児のために休暇をとり、仕事を続ける」が 36.8%、「子どもができるまで就労し、子どもができたなら家事や子育てに専念する」が 14.4%、「子育て時期だけやめ、その後はパートタイムで就労」が 14.0%となっている。2番目に多い「子どもができたなら家事や子育てに専念する」の割合が、成人に比べて7.1ポイント高い。

※2 女子は、「育児のために休暇をとり、仕事を続ける」が 42.9%と最も高く、男子の 30.7%に比べて12.2ポイント多い。次いで、「子どもができるまで就労し、子どもができたなら家事や子育てに専念する」が 14.2%である。働き続けたいと回答した女子が4割強いる反面、主婦・母として家庭内での活躍を希望する女子も成人に比べて多いことが分かる。

※3 男子は、妻の理想の働き方として「育児のために休暇をとり、仕事を続ける」が 30.7%と最も高く、次いで、女子同様「子どもができるまで就労し、子どもができたなら家事や子育てに専念」が 14.6%である。男子も、子どもができたなら妻に家庭に入って欲しいと思っている割合が成人に比べて高い。

【問11】仕事を選ぶときに大切なこと	女子	男子
・興味・関心が活かせる仕事	79.7%	76.3%
・給料が高い仕事	54.5%	65.6%
・人の役に立つ仕事	58.8%	46.8%
・家族と過ごせる時間がある	48.2%	49.3%

※ 女子、男子ともに「興味・関心が活かせる仕事」が最も高く、次いで男子は「給料が高い仕事」、女子は「人の役に立つことのできる仕事」となっている。なお、「家族と過ごせる時間がある」は女子、男子ともに高い割合となっている。

4 人権について

【問12】人権尊重市政運営意識	女子	男子
○人権が尊重された市政が運営されているか		
・そう思う、どちらかといえばそう思う	90.7%	89.6%
・そう思わない、どちらかといえばそう思わない	9.4%	10.5%

※ 全体では、「松本市は基本的な人権が尊重された市政が運営されている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が 90.1%と9割を超え、高い割合となった。

【問13】人権問題について家庭等で話し合った経験	今回	前回(H28)	比較
・話し合ったことはない	32.8%	39.1%	△6.3%
・記憶がない	26.4%	33.8%	△7.4%
・時間をとって話し合ったことがある	4.4%	4.5%	△0.1%

※ 「話し合ったことはない」32.8%と「記憶がない」26.4%を合わせると 6 割近くに達し、話したことのある割合よりも多くなっている。「時間をとって話し合ったことがある」は 4.4%とわずかである。

【問14】課題に感じている人権問題	今回	前回(H28)	比較
○学んだ、聞いたことがあること			
・男女差別や女性に対する暴力などの問題	70.8%	73.3%	△ 2.5%
・学校でのいじめや児童虐待などの問題	70.5%	68.8%	1.7%
○差別や偏見があると感ずること			
・刑を終えて出所した人への差別などの問題	46.3%	37.5%	8.8%
・障がい者への差別や偏見などの問題	45.4%	54.2%	△ 8.8%
○松本市の重点的取組課題と思うこと			
・インターネット上の人権侵害の問題	38.5%	26.4%	12.1%
・学校でのいじめや児童虐待などの問題	31.9%	38.3%	△ 6.4%

※ 差別や偏見があると感ずることは「刑を終えて出所した人への差別や偏見の問題」が、8.8ポイント増加して最も高くなっている。また、「インターネット上での人権侵害の問題」が 44.9%で6.8ポイント増加している。

※ 松本市において、重点的に取り組んだ方が良いと思うことは、「インターネット上での人権侵害の問題」が 38.5%と最も高い。また、「性的少数者への差別や偏見の問題」が 30.5%と前回調査より 12.5ポイント増加している。

【問15】暴力についての意識	今回	前回(H28)	比較
・どのような理由でも、絶対してはいけない	78.6%	74.3%	4.3%
・わからない相手には、必要なこともある	13.0%	15.9%	△ 2.9%

※どのような理由があっても、絶対してはいけない」が最も高く、4.3ポイント増加した。次いで、「言ってもわからない相手に、必要なこともある」であるが、2.9ポイント減少している。

【問16】虐待やDVの見聞き経験	今回	前回(H28)	比較
・身近なところでの虐待やDVを見る、聞く、受けたことが「ある」	11.6%	10.1%	1.5%

【問17】虐待やDVをされたり、見た時の対応	今回	前回(H28)	比較
○虐待やDVをされた時の対応	32.2%	36.2%	△ 4.0%
・誰かに相談する			
・がまんする(何もしない)	17.5%	17.3%	0.2%
・家族に相談する	15.5%	16.1%	△ 0.6%
○虐待やDVを見たりした時の対応	35.3%	42.1%	△ 6.8%
・誰かに相談する			
・相談機関の窓口に電話する	16.7%	5.7%	11.0%
・家族に相談する	14.4%	12.3%	△ 2.1%

※ 虐待やDVをされた時は、「誰かに相談する」が 32.2%と最も高く、次いで、「がまんする(何もしない)」が 17.5%と前回調査と変化はない。一方、見たりした時は「相談機関の窓口に電話する」が11.0ポイント増加している。中高生別にみると「誰かに相談する」割合が、高校生になるほど多く、また「がまんする」割合は女子が中学生・高校生ともに多い傾向がある。

【問18】虐待や暴力の相談機関の認知状況	今回	前回(H28)	比較
・市の相談窓口(こども福祉課・保健センター・女性センター・いのちのきずな松本等)	69.3%	42.2%	27.1%
・いのちの電話相談	49.9%	18.3%	31.6%
・松本児童相談所(児童虐待・DV24時間ホットライン)	48.1%	33.8%	14.3%
・どれも知らない	15.0%	32.6%	△17.6%

※「市の相談窓口」が最も高く、27.1ポイント増加した。どの窓口も認知度が増加し、「どれも知らない」が減少した。

5 基本的人権について

【問19】自身の人権が侵害された経験	今回	前回(H28)	比較
・ある	13.9%		
・ない	86.1%		

※ 今回から加えた設問

【問19-1】人権侵害を受けた状況	今回	前回(H28)	比較
・学校関係	76.8%		
・家族・親族	22.6%		
・趣味等の活動関係	13.2%		

※ 今回から加えた設問

【問19-2】インターネット上で人権侵害を受けた状況	今回	前回(H28)	比較
・ある	26.8%		
・ない	73.2%		

※ 今回から加えた設問

【問19-3】インターネット上で人権侵害を受けた内容	今回	前回(H28)	比較
・思想・言動	62.7%		
・真実でないこと(デマ)	52.9%		
・容姿	25.5%		

※ 今回から加えた設問

6 男女共同参画について

【問20】家庭、学校、社会における意識	今回(H28)	前回(H28)	比較
○男女は平等と思う分野は			
・家庭で	79.2%	73.3%	5.9%
・学校で	71.5%	70.6%	0.9%
・社会全体で	33.6%	41.0%	△ 7.4%

※男女は平等であると思うことは、「家庭で」と「学校で」とともに増加傾向である。しかし「社会全体で」は33.6%と前回調査の41.0%より7.4ポイント減少した。

【問21】家事や仕事分担に対する考え方	今回	前回(H28)	比較
○家事全般は夫婦で協力するほうがよい	96.0%	90.9%	5.1%
・そう思う、どちらかといえばそう思う			
○育児や介護は夫婦で協力するほうがよい	96.5%	94.7%	1.8%
・そう思う、どちらかといえばそう思う			

※ 男女協力して家事等を行うという意見が10割に近づいている。

【問22】社会問題を知るために利用しているメディア	女性	男性
・テレビ	97.8%	98.2%
・インターネット(パソコン、スマートフォン等)	92.6%	91.2%
・新聞	61.3%	71.9%

※女性、男性ともに「テレビ」「インターネット」「新聞」の順である。特に「テレビ」「インターネット」に関してはかなり高い割合で利用している。また男性に関して、女性より新聞を利用している割合が10.6ポイント高かった。

【問 22-1】よく利用する SNS アプリ	今回
・Facebook	41.9%
・TikTok	14.3%
・LINE	13.9%

※ 今回から新しく加えた設問

【問22】メディアの性・暴力表現	今回	前回(H28)	比較
・社会全体に、性に関する健全な見方・考え方が損なわれている	27.5%	16.1%	11.4%
・特に感じない	39.5%	50.0%	△10.5%

※ 今回の調査では、ポイントは減少しているものの「特に感じない」が 39.5%と最も多く、次いで「社会全体に、性に関する健全な見方・考え方が損なわれている」が 27.5%であった。